

ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（1779）

新訳刊行記念ワークショップ

「18世紀の対話篇を 読む／論じる／翻訳する」

【日時】

2020年12月16日（水）

14:00~16:00

【場所】*オンラインイベント

参加希望者は事前登録をお願いします

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_KzaWDhG5S

[FCFhdHDxPFyNg](https://us02web.zoom.us/j/911111111111)

【言語】日本語

【プログラム】

14:00-14:10 企画趣旨説明

14:10-14:30 報告1：英文学研究から『対話』を読む
若澤佑典（東京大学特任研究員）

14:30-15:00 報告2：政治思想史から『対話』を読む
犬塚元（法政大学教授）

15:00-15:30 報告3：社会思想史から『対話』を読む
壽里竜（慶應義塾大学教授）

15:30-15:50 総合討論

15:50-16:00 登壇者による総括

*本書を読んだことがない方、ヒュームについて何も知らない方、18世紀（啓蒙思想）の世界が何となく気になっている方など、幅広い層からの参加を歓迎します。知的関心がある学部生・大学院生の方たちのレスポンスもお待ちしております。



東アジア藝文書院

18世紀スコットランドの思想家／文筆家デイヴィッド・ヒュームは、晩年に『自然宗教をめぐる対話』の刊行を準備し、その遺稿は没後出版されました。ヒュームの代表作として現代で広く知られている『人間本性論』（1739-40）と比べると、本書は長い間、日本の読者にとってなじみのない作品となっていました。

しかし、今年1月、犬塚元氏による『対話』の新訳が、岩波文庫から刊行されました。これは、本書の魅力を日本語で味わう絶好の機会です！そこでは、三人の登場人物による哲学対話が生き生きと描かれ、タイトルにある自然宗教だけでなく、教育、社交など多岐にわたって興味深い議論が展開されています。

本ワークショップでは、訳者を含めた三人のヒューム研究者が集い、『対話』のおもしろさ、ヒュームが切り開いた知的世界の奥行き、そして18世紀に執筆された対話篇たちについて、学問領域を横断して対話します。

【主催】

東京大学東アジア藝文書院（EAA）

info@eaa.c.u-tokyo.ac.jp

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/>

上記HPからも参加登録いただけます

企画・運営担当者：若澤佑典